

聖路加国際病院名誉院長

日野原 重明 先生 来校 !

「いのちの授業」 開かれる

高岡市立下関小学校

平成19年7月10日(火) 聖路加国際病院名誉院長日野原重明先生をお迎えして「いのちの授業」をしていただきました。先生は本校の校歌のピアノ伴奏で入場され、引き続き指揮をされました。授業を受ける4年生児童105名は先生の指揮に合わせて校歌を歌うという、またとない機会に恵まれました。そして「いのちの授業」が始まりました。

「みなさんのもっている時間の使い方は、みなさんで決めることができる」「みなさんの時間は、人のために使うことが大切」等、貴重なお話をしていただきました。

先生の話聞いての児童の感想を載せます。



日野原先生の「命は自分のために使うのでしょうか、それとも、人のために使うのでしょうか」という言葉を聞いて、わたしは、命は自分のためにも、人が困っているときも使うものだと思います。 M・K

わたしは、前日の夜から「いのちの授業」でどんなのかな、と思っていました。日野原先生の言葉の中で一番心に残ったのは「命とは時間です。それをどのように使うかは自分次第。今は好きなように使ってよいけど、大人になったら時間をみんなのために使ってください」という言葉です。また、先生は「長く生きればいいんじゃないんです。大切なのは人生のなかみです」と教えてくださいました。 E・S

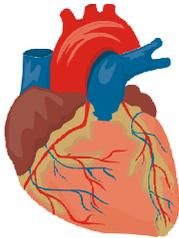
ぼくたちは、今、自分だけの時間を遊んだり勉強したりしているけど、大人になるとボランティア活動をしたりぼ金をしたりしてみんなのために働いている人がいます。ぼくも、大工さんになったり消防士になったりして、みんなを助けたいと思いました。

日野原先生は、今96才で立っていて姿勢もよく、はっきりしゃべっておられていて、元気で70才ぐらいにしか見えませんでした。「みんなは何才まで生きていますか」と聞かれた時、ぼくは、120才ほどまで生きていたいと思いました。 K・O



自分の心ぞうは、にぎりこぶしぐらいの大きさで、意外と大きいと思いました。それにちょうしん器で自分の心ぞうの音を聞かせてくださいました。思っていたよりも速くておもしろい音でした。

子どもの心ぞうの音は、1分間に85回ぐらいで、ゾウは20回ぐらい、ウサギとネズミは200回以上で、小さいものほど速くなるという話がおもしろかったです。 R・H



わたしは、心ぞうの大きさなんて考えたこともありませんでした。日野原先生から「心ぞうの大きさはどれくらいでしょう」と聞かれて、てのひらぐらいかなと思っていたら、「にぎりこぶしの大きさです」と言われて、思ったより小さいと思いました。

先生の言葉で「命は時間だ」ということが心に残りました。先生は「もし、あと一日しか生きられないとしたら、のんびりとした日にしたいか、人のためになることをする日にしたいか、どっちを選ぶかは自分できめるべきだ」と言われました。わたしは、人のためになることをする日にしたいと思いました。

S・N

「命を大切に」「人のために尽くす」などの言葉はこれまでもよく聞いた言葉ですが、実際に医療に携わってこられ、96才の今も元気でご活躍されている先生から、直に発せられた言葉には重みを感じられました。子どもたちのみならず、わたくしにとっても忘れられない授業となりました。

保護者

日野原先生 ありがとうございます。